

横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年11月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第41週以降、増加に転じています。10代を始めとする若い世代を中心に、幅広い年齢層での感染がみられます。
- 梅毒などの性感染症が高い水準で続いています。

◇ 全数把握の対象

＜11月期に報告された全数把握疾患＞

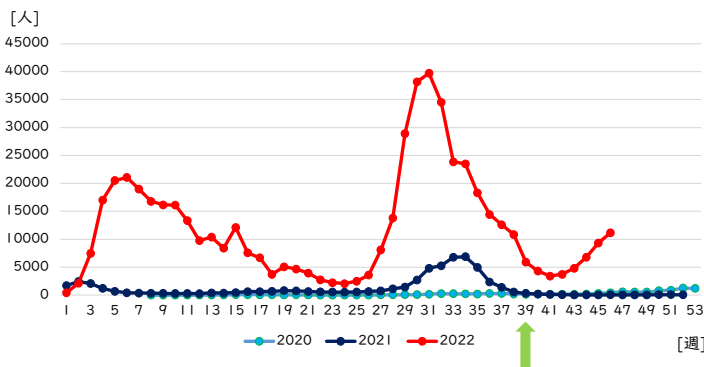
腸管出血性大腸菌感染症	5件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
E型肝炎	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	1件
レジオネラ症	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
アメーバ赤痢	1件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件	梅毒	12件

- 腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～50歳代で、血清群O157が4件、O26が1件報告されました。経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- E型肝炎**:30歳代～50歳代で、経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- レジオネラ症**:60歳代～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢**:50歳代で、感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:10歳未満～80歳代で、感染経路等不明の報告が8件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:30歳代～90歳代で、血清群はA群、G群、F群が各1件ずつ報告されました。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:40歳代で、無症状病原体保有者、性的接触(同性間)による感染と推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴2回1件、接種歴無1件、接種歴不明3件)の報告が5件ありました。飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 水痘(入院例に限る)**:70歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 梅毒**:20歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。性的接触による感染と推定される報告が11件(異性間10件、詳細不明1件)、感染経路等不明の報告が1件ありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

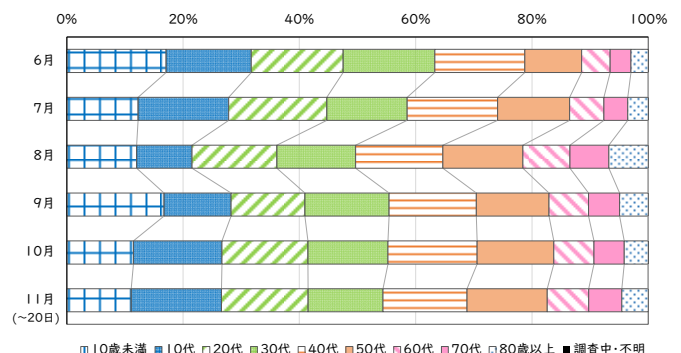
第43週～第46週に横浜市から報道発表がありました症例は32,108件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移

※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています。(緑矢印)

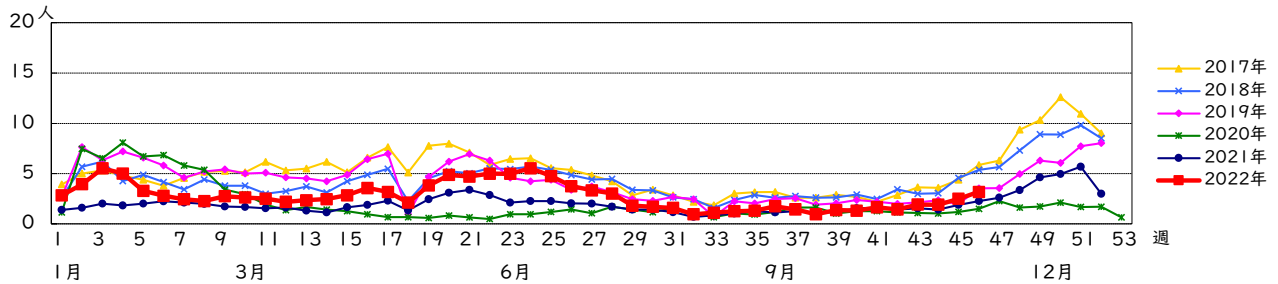


2 年齢層別患者割合

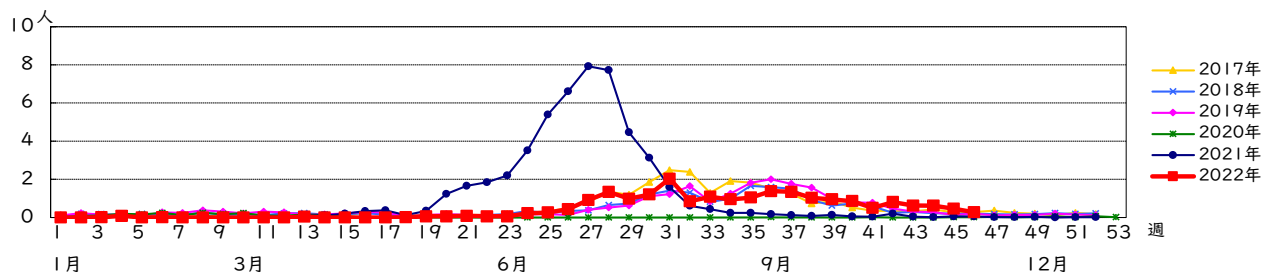
報告週対応表	
第43週	10月24日～10月30日
第44週	10月31日～11月6日
第45週	11月7日～11月13日
第46週	11月14日～11月20日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎：第39週以降増加に転じ、第43週1.93、第44週1.90、第45週2.49、第46週3.18と増加しています。



2 RSウイルス：第31週に2.03でピークを迎えましたが、第43週0.63、第44週0.62、第45週0.46、第46週0.28と減少しています。



3 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:6件	女性:2件	淋菌感染症	男性:23件	女性:5件

4 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.33
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.33	0.00

5 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

11月期(2022年第43週～第46週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点31件、眼科定点1件、基幹定点3件、でした。

11月21日現在、コクサッキーウイルスA6型遺伝子2件、コクサッキーウイルスA10型遺伝子1件、エンテロウイルスD68型3件、ライノウイルス2件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第43週～第46週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	ヘル パン ギー ナ	低 月 齢 発 熱
コクサッキーウイルスA6型			- 2	
コクサッキーウイルスA10型	- 1			
エンテロウイルスD68型	- 1	- 1		- 1
ライノウイルス	- 1	- 1		
合計	- 3	- 2	- 2	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

11月期(2022年第43週～第46週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、ウエルシュ菌1件、大腸菌1件でした。非定点からの依頼は、非結核性抗酸菌2件、サルモネラ属菌1件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌7件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性肺炎球菌2件でした。

「分離同定」の検査依頼は、保健所からレジオネラ属菌2件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎2件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2022年第43週～第46週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等
基幹定点	医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
		ウエルシュ菌	1	<i>Clostridium perfringens</i> (1)
		大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O6 (1)
非定点		非結核性抗酸菌(NTM)	2	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (1)、 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (1)
		サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Braenderup (1)
保健所		腸管出血性大腸菌	7	O157 : H7 VT2 (3)、O26 : H11 VT2 (1)、 O103 : H2 VT1 (1)、O128 : Hg2 VT1 VT2 (1)、 Og38 : Hg26 VT1 (1)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (3)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Morganella morganii</i> (1)
		劇症型溶血性レンサ球菌	2	G群溶血性レンサ球菌 (1)、A群溶血性レンサ球菌 (1)
		侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 35B (2)
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)、培養陰性 (1)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	2	A群溶血性レンサ球菌 TUT (1)、 A群溶血性レンサ球菌 TB3264 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】